



チームⅠ
中川 忠則
議員

▼消滅可能性都市からの脱却のための意識改革について

Q 島原・熊本間に海底トンネルを掘り、熊本に通動できるようにすれば若い世代が残りやすいと思うがどうか。

A ダイナミックな発想はまちづくりが必要と思っている。長期的な展望や視点で大胆かつ斬新な提案ができる人づくり、組織作りに努めていきたい。

Q 市職員を先進的なIT企業に派遣する研修事業の内容と目的は何か。

A 若手の職員を東京の複数の企業に一週間程度派遣する。民間のスピード感や経営判断を垣間見ること、業務に生かすとともに将来的な協働に向けた企業との関係性を構築したい。

Q 幸田町とのものづくり・青い目の人形の交流事業をどう考えているのか。

A 幸田町の企業立地監にきていただき、また東海・関東地区でも企業のマッチングを進めていただいている。青い目の人形による交流も進み、姉妹都市を目指して進めていきたい。

▼十八歳選挙権に対応した周知について

Q 高校生が平日に期日前投票に行くのは、公の欠席になるのか。

A 文部科学省の指針によると公の欠席にはならないとなっている。

Q 高校生の政治活動への参加はどこまで許されるのか。

A 選挙期間以外は誰でもできるが、候補者のパンフレットを配布した場合など選挙違反になる事例があるので注意が必要である。

▼小・中学校の学力向上について

Q 学力向上対策事業はどのようなことを行っているのか。

A 小学校一年生を除く全学年で学力調査を実施し、学力向上対策を図っている。

▼二重納付について

Q 後期高齢者医療保険で納付書と年金天引きで二重納付が発生しているが、防ぐ手だてはどのように考えているのか。

A 口座振替を申し込まれた場合、手元に残っている納付書で再度納付され二重納付になる場合があるので検討が必要だと考えている。



実践クラブ
馬渡 光春
議員

▼しまばら湧水について

Q 島原の湧水は市の中心街に多く湧き出ていることが特徴だと言われているが、湧水場所の調査、登録をするべきだと思うがどうか。

A 水の都として、まち・ひと・しごと創生総合戦略でも湧水をイメージしたまちづくりを目指しており、湧水の全体的な把握は必要だと考えている。

Q 湧水に対する市長の思いと今後の利活用についてはどうか。

A ふるさと島原を代表する貴重な資源であり、清流のイメージには計り知れない可能性を秘めていると思っている。総合戦略の中でも湧水を島原のブランドとしてイメージアップする最前線に位置づけている。

Q 湧水の恵みや癒しを求めて島原に來られるような取り組みが必要だと思う。また、しまばらのステッカーやバッジを作成し、行事などあらゆる場面でPRしていくべきだと思うが。

A ふるさと創生への取り組みとして、市役所のみならず、市民と一緒に進めていくべきだと考えている。

▼水道事業について

Q 一月の記録的な寒波による被害状況とその後の対応はどうだったのか。

A 市が管理する水道施設には直接被害はなかったが、個人給水管が凍結し、破損や破裂の相談が水道課へ四百六十四件、給水工事指定店組合への修理依頼が千三百八十五件あった。給水管破損等による漏水への対応として、市指定の工事店で修理をされた方を対象に、水道料金の増額分（前年同月比）を減免することになっている。

Q 島原市の水道事業における危機管理体制はどうなっているのか。

A 島原市地域防災計画に基づき、自然災害等に対応するための危機管理マニュアルを策定しているが、訓練等は実施していない。

Q 窒素負荷低減対策への取り組みはどうか。

A 対策会議で取りまとめられた負荷低減計画に基づき、地下水汚染が進行しないような方策を講じており、全体的には減少傾向が見られる。

【その他の質問項目】

◆島原市プレミアム付き商品券・ふるさと旅行券事業について